



地域とともに歩み、
地域の未来を拓く学校



湖南省立石部小学校校報第132号

令和2年(2020年)5月7日

文責：校長 法山 由紀子

「ピンチをチャンスに！」 ～「ALL石部」で乗り切りましょう！～

新型コロナウイルス感染症感染防止の措置として、臨時休校期間が5月31日(日)まで延長されました。命最優先の措置です。今回もこれまで同様、どうかご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。

とはいえ、臨時休校期間が長期化するなかで、命を優先しながらも子どもたちの学びを保障していくことも大切なことであり、その取組が急務であると考えています。

保護者、地域の皆様方のご協力もいただきながら、次のように取り組んでいきたいと考えています。子どもたちといっしょにお読みいただき、ご協力をどうかよろしくお願い致します。

なお、今後の状況により、新たなご協力をいただくこともあろうかと思いますが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

★「子どもたちの学習を進める取組」

【まずは、心がまえから】

「おうちが学校」に考え方をチェンジ!

3月に始まった臨時休校が3カ月目に入ります。

この「休校」は、「長い春休みの続き」ではありません。新しい学年に進級して、大事な時間が今、このときも刻まれています。この時間を大切に使うために、これまでの「勉強は学校で教えてもらうのが当たり前」という考えを「今は、おうちで勉強するのが当たり前」「おうちが学校」という発想に転換してみてください。

学校が再開したら、また先生がみなさんといっしょに楽しい授業をさせていただきます。どうかそれまでは、「おうちで勉強当たり前!」で、できること、やるべきことに取り組んでいきましょう。

【「自分で計画する」「いろいろ考える」今だからこそ、試される力】

今までは、「チャレンジいしべっ子」やEテレの予定表、紹介された外部のサイトなどを 使って、先生が作ったモデルを参考に、自分で一週間の予定表を作ることをがんばってきました。

こんなときだからこそ、「自分で計画を立てる力」「自分でやってみようとする力」「柔軟に発想する力」が試されますね。

でも、この力はこれからの21世紀の社会でとても大切になる力の一つなんです。

この力を伸ばすためにも、自分の学習の計画を立てる方法は続けていきます。

ぜひ、子どもたちといっしょに計画表を考えていただいたり、子どもたちのがんばりをいっぱいほめたりしていただけたらうれしいです。

【毎週、先生からの「ミッション」があります】

「ミッション」をクリアして先生に提出します。

「自分で計画する力」を生かしながらも、今回はそこに「先生からのミッション」を入れます。この「ミッション」は、必ず全員が取り組むものです。

内容は、新しい学年の漢字を覚えたり、教科書を読んで予習をしたり、中には植物を実際に育てて観察したりするミッションもあります。復習もありますが、学校が再開したときに備えて、復習よりも今の学年の学習を中心に進めていきます。

- ①自分の予定表を作って、一週間分の計画を立てます。
- ②一週間の予定表の中に、毎日3時間分の「先生からのミッション」があります。これは、必ず取り組みましょう。そして、次の週に必ず提出してください。
- ③先生との学習の成果のやりとりは、名付けて「スペシャルメールBOX」を活用します。「スペシャルメールBOX」とは、みなさんのくつ箱のことです。きれいに消毒済みなので、安心して使ってください。
- ④決められた日に課題を入れた封筒をメールBOXに入れにきます。そのとき、新しい課題が入った封筒がBOXに入っているの、入れ替えて持ち帰ってください。安全面を考え、保護者の方で取りに来ていただきますようお願いいたします。子どもだけの登校は避けてください。
- ⑤受け渡しは、次のように曜日を決めさせていただきます。兄弟姉妹すべてのお子さんのBOXを確認してください。(8:30~18:00)
水曜日 …… 中央
木曜日 …… 東
金曜日 …… 西・岡出
*今回ポスティングした緑の封筒に入った課題は20~22日に提出します。
*13~15日は、茶色の封筒で新しい課題をわたします。緑の封筒と入れ替えてお持ち帰りください。
- ⑥子どもたちががんばって取り組んだ課題は、学校の方で確認していきます。わからないところやつまずいているところは電話でアドバイスを行ったり、学校再開後に補充したりしていきます。

★「チーム石部」一丸となるための取組

今年度の学校教育目標

やる気いっぱい! やさしさいっぱい! 夢いっぱい!

~ふるさと石部から「えがお」発信~

学校が拠点となって、みなさんの「えがお」につながるメッセージを発信できたらと考えています。

今回お渡しした緑の封筒に「石部の声」というカードが入っています。だれもが経験したことのないこのような状況のなかで、めぐり会い、ともに生きるみなさんです。そこに、みなさんからの生のお声をいただけたらと思います。お互いにエールを贈りあって「えがお」になりましょう。

